

意見募集

市では、天都山展望台の建て替えの可能性について検討しています

『天都山展望台改築可能性調査報告（市民調査検討会からの報告）』に対するご意見の募集



天都山展望台は、昭和54年に全面改築してから30年が経過し、老朽化が著しく、新耐震基準への不適合や展望台周辺の樹木の成長による視界の悪化、さらにはエレベーターが設置されていないことで高齢者や身体の不自由な方への配慮不足等の問題が指摘されています。

また、展望台に併設しているオホーツク流水館につきましても、昭和60年の開業以来、多様化するニーズに対応するため、リニューアルを繰り返してきましたが、老朽化による修繕費等の増嵩とマンネリ化による来館者数の低迷等が喫緊の課題となつていきます。

このため市では、平成20年度に「天都山展望台建替基本構想調査」を実施し、オホーツク流水館も含めた天都山展望台の建て替えの可能性について検討するとともに、昨年度は、市民20名による「天都山展望台改築可能性調査検討会（委員長：東京農業大学生物産学学部田中俊次教授）」を設置し、天都山展望台の建て替えの可能性について検討していたが、今年の4月16日に「天都山展望台を建て替えて新たな網走観光の推進を図る」旨の調査報告を受けました。

今回は、調査報告を市民の皆さんに公表し、その報告に対するご意見を寄せていただきたいと考えています。

意見の提出は、郵便の場合には、9ページに折り込んでいる手紙の台紙を、メールの場合には、網走市公式ホームページ（<http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/>）を1利用いただき、8月23日までに送付してください。（郵送の場合は当日消印有効）

なお、紙面の都合上、天都山展望台改築可能性調査報告の概要版を掲載しましたが、全編については、観光課に備え付けるとともに、ホームページに掲載していますのでご了承ください。

【問合せ先 観光課観光振興係 内線243】

天都山展望台改築可能性調査検討会報告（市民調査検討会からの報告）概要

序章 調査の背景と目的

建て替えの可能性を検討するために実施した「天都山展望台建替基本構想調査」の概要

▽展望台の高さを30〜50mにしてシミュレーションした結果、遠方の眺望については差がなかった。（現在の高さは17.5m）

▽新たな展望台の建設位置については、既存展望台の正面アプローチ（第1駐車場と現展望台の間）、もしくは東斜面（第2駐車場からの階段部分）に配置することが、他箇所に配置するよりも優位性が高い。

▽施設の概要は、既存施設と同規模程度の床面積（2,000〜2,500㎡）を想定した。

▽新天都山展望台は、展望室、流水体験室、展示コーナーを一体利用として有料化し、レストラン、物販ゾーンは、無料とする。

▽展望台は、高さ30m、建設費6億8千万円（建設6億4千2百万円、解体費3千8百万円）、外工費2千万円、合計7億円程度を想定している。

本調査の目的

前述を踏まえ、天都山展望台について、次の2点を中心に検討を加えることとする。

- ① 観光振興ならびに地域活性化の観点から、天都山展望台の建て替えの必要性について
- ② 観光振興ならびに地域活性化の観点から、天都山展望台の建て替えに際しての具体的な留意点について

第1章 網走市の観光を取り巻く現状

国内・北海道ならびに網走市の観光動向

▽国内旅行市場の動向は、日本人の海外旅行や外国人の日本旅行については堅調に推移しているが、日本人の国内旅行が減少傾向にあります。

▽国内旅行の形態は、団体旅行と比較して個人旅行が大半を占めています。

▽国内旅行のマーケット区分別シエアは、家族旅行が5割弱を占め、その内訳は子育て後の夫婦旅行が主となっています。

▽旅行目的は、「温泉旅行」「自然観光」「グルメ」「歴史・文化観光」が多い状況となっています。

▽網走市の観光客入込数、宿泊数および観光施設の入込数は、減少傾向が顕著であり、特に夏季の入込込みが減少しています。

▽網走市の観光は、来訪者からの評価は高いが、総合的に評価が伸び悩む地域と言えます。

第2章 網走市の観光振興と地域活性化に向けた検討課題

新展望台建替を検討するに当たり必要な課題の整理

▼新しい観光動向への対応

▽国内観光の主流である「温泉」「自然」「グルメ」「歴史・文化」に、

プラスα要因として「体験型」のメニューのニーズが高まっていることから、この部分を視野に入れた検討が必要です。

▼「ポスト流水」観光のあるべき姿の模索

▽網走観光における落ち込みの激しい夏季シーズンの魅力創出と、地球温暖化の影響により消失の可能性もある「流水」をどのように位置付けるかが重要です。

▼多彩な魅力要素を活用したストーリー性の提示

▽「これからの網走観光の核」を明確にし、多様な魅力要素による多彩なストーリー性を展開することが必要です。

▼網走市全体における地域活性化の取り組みの有機性

▽各団体等が取り組む地域活性化の取り組みを有機的に結びつけ、各団体、個人および関連産業が観光産業や行政と連携し、網走全体での観光振興に取り組む体制づくりが重要です。

第3章 観光振興と地域活性化の観点から見た展望台建替の必要性

第2章の課題を踏まえた展望台建替の必要性

▼網走のランドマークとなる中核的拠点の必要性

▽網走観光の「玄関口」として、網走の多彩な魅力を集約して紹介する中核的拠点が求められます。

▼多様な魅力への入り口となる情報発信拠点の必要性

▽網走の多様な魅力を、「着地」、すなわち網走の現地において情報が得られる拠点が存在することが望まれます。

▼連泊する来訪者にも対応し得るレクリエーション拠点の必要性

▽天都山地区には観光施設のほか飲食店等の集積も見られ、連泊する魅力を備えています。展望台を建て替えることにより、さらに魅力を高める可能性があります。

▼市民が集い賑わいの中心となる活動拠点の必要性

▽市民の地域活動の拠点、交流および憩いの場等としての整備が必要で、

▼観光客と市民が触れあうことのできる交流拠点の必要性

▽市民と観光客の交流の場として機能することが期待されます。

第4章 展望台建替に際しての具体的な留意点

▼明確なコンセプトに基づく施設整備

▽時代のニーズに応じた明確なコンセプトに基づく展望台であること。

▽観光客のみを対象とした施設運営は難しいことから、景観展望のみではなく、付加価値のある施設を検討すること。

▼天都山地区の位置付けと他地区との機能分担の明確化

▽さまざまな来訪者が、網走の魅力を感じられるランドマークとして位置付けられること。

▽来訪者のニーズに対応できる情報提供の仕組みをつくること。

▽他施設等とのネットワークを構築し、来訪者が次の行動を決定できる情報提供を行うこと。

▼展示内容の充実と展示手法の検討

▽流水館のコンセプトを継承し、流水を中心に展開する視点を持つこと。

▽「オホーツク文化」にも光をあて、文字情報のみならず体験・体感できる要素を導入すること。

▼市民が日常的に利用する魅力付け

▽市民利用の促進に向けた無料ゾーンを検討すること。

▼誰にも利用しやすい施設デザイン

▽ユニバーサルデザインへの対応をすること。

▽展示内容についても、外国人対応等、誰にでも楽しめる施設とすること。

▼地域環境に配慮した施設デザイン

▽施設デザインにおいて、地域環境への配慮がされていること。

▽天都山地区の各観光施設等、大曲湖畔園地、さらには網走湖畔等も含めた広域観光ゾーンとしての利用を図ること。

▽施設整備において、周辺施設とのコンセプトや整備内容と連動すること。